

事例 47

タイトル: おいしく楽しい食事の時間を過ごしたい

・ <事例の状況>

本人の希望で日中を通して居室で過ごしており、食事の時のみリビングにて過ごしている。最近、ADLの低下が顕著に見られ、以前は毎食全量摂取していた食事も、最近は主食を半分程食べ、他は「もういない。」と残す傾向にある。スタッフが介助を行い、口へと運べば何とか食べるが、無理やり食べているといった印象が目立つ。

・ <この事例で課題と感じている点>

本人のADLの低下から以前のように自分のペースで食事ができないことにより、おいしい食事や楽しい食事の時間を過ごすことができない。また、食事摂取量も低下傾向にある。

・ <キーワード>

食事の時間の過ごし方。

・ <事例概要>

【年齢】 70歳代後半

【性別】 男性

【職歴】 工場で働いた後、運転手となる。

【家族構成】 妻は亡くなっている。入居前は長女夫婦と同居。

【認知機能】 HDS-R 8点

【要介護状態区分】 要介護1

【認知症高齢者の日常生活自立度】 b

【既往歴】 腰部脊柱管狭窄症・両変形性膝関節症・腰椎変形すべり症・頸椎症性脊髄症・
両下腿火傷

【現病】 認知症・前立腺肥大症・神経因性膀胱・白内障・脳梗塞（極小）

【服用薬】 プラビックス・ハルナール・乳糖・サイレース・

（酸化マグネシウム・センノサイド・ラキソベロン）（）内は2日に一回夕食後に服用

【コミュニケーション能力】 ある程度、自分の要求を他者に伝達できる。

【性格・気質】 頑固で几帳面。短気なところもある。人の話をあまり聞かず、適当に返事をすることもある。

【ADL】 食事は常食で基本的には一部介助だが、日によって茶碗やスプーンが持てないといった状態があるため、全介助が必要な時もある。排泄に関しては、訴えることができるので、日中を通してそのたびにポータブルトイレへと誘導を行っている。移動に関しては全介助で、車椅子の自操も不可。立位がかるうじて可能であるが、手すりやスタッフの支えがなければ、不可能。着脱はほぼ全介助。入浴に関しては、一連の動作を通して全介助。

【障害老人自立度】 A2

【生きがい・趣味】 運転手時代の話が好きで、自分の仕事に誇りを持っていた。入浴は好きである。

【生活歴】 結婚後子供3人をもうける。妻死亡後は、長女夫婦と同居していたが、徐々に歩けなくなってきたのと、長女の精神的ストレスが増加し、在宅介護困難な状況のため、施設に入居となる。入居当初はトイレなど居室内を自ら歩行していたが、現在ではADLの低下から歩行困難になり、ベッドに座ったまま一日を過ごしている。

【人間関係】 娘が時々面会に来る。一度だけ昔の友人が会いに来た。以前は他の入居者と会話が合ったが、今はない。

【本人の意向】 穏やかに過ごしたい。

【事例の発生場所】 特別養護老人ホーム